

令和7年1月の景色



オオハナワラビ

シダ植物（ハナヤスリ科 ハナワラビ属）

夏に枯れる性質（＝冬緑性）のシダ植物。秋に栄養葉を出し、冬に孢子葉を出します。シダ植物の多くは葉の裏に孢子嚢（のう）群をつけることが知られていますが、オオハナワラビは栄養葉とは別に孢子葉を出します。

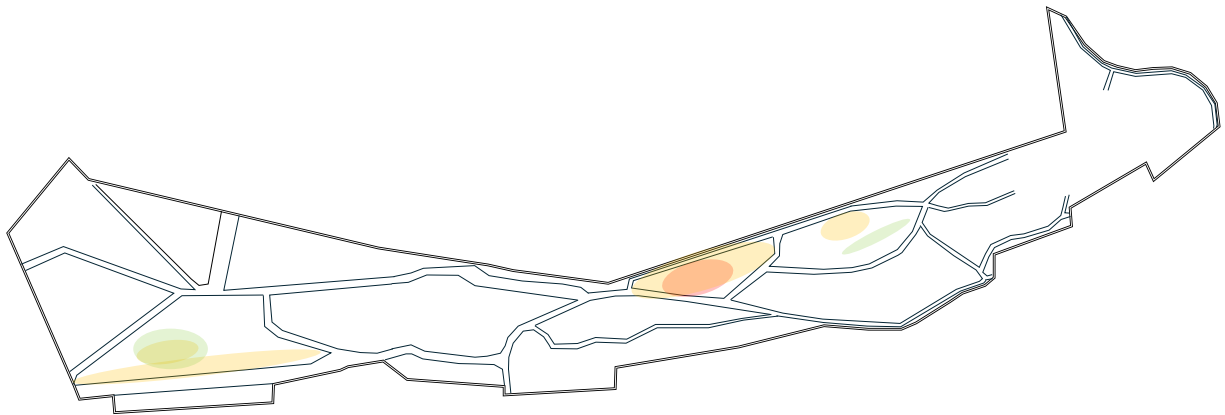
下方で葉を広げているのが栄養葉で、中央で立ち上がっているのが孢子葉です。

よく似た植物にフユノハナワラビがありますが、オオハナワラビは茎などに毛があることで、見分けることができます。ただ、雑種ができることもあるようです。武蔵台緑地では、落葉樹と常緑樹が混じったエリアでたまに見かけることができます。

#### 業務の実施内容

- ・ササ刈り
- ・実生木と常緑樹の選択除去
- ・外来種・栽培種などの選択除草
- ・市民ボランティア等との協働
- ・植物相調査
- ・巡回
- ・投棄物の回収清掃

## 作業箇所図



-  実生木・常緑樹の選択除去
-  外来種・栽培種ほかの選択除去
-  ササ刈り

## ササ刈り と 実生木と常緑樹の選択除去



作業前



作業後

\*実生木（みしょうぼく）とは…

風や鳥などに運ばれてきた種から芽生え、成長した樹木のこと。



## ササ刈り

目標とする高さを超えるササ類を地際から刈り取りました。



作業前



作業後



作業前



作業後



## 選択除草(つる取り)

シロヨメナ群落では、これまでも覆いかぶさるつる植物の選択除草を実施してきましたが、厚く積もった落ち葉の下の地表面にはつるが這いまわっており、依然、つるの密度が高い状態です。這いまわるつる植物の選択除草を継続することにより、シロヨメナが被圧されない環境を作っていきます。

\*シロヨメナは環境調査員会議の環境調査で、「注目種」に指定されています。



シロヨメナ(白い花)に覆い被さるつる植物



地表を這いまわるつる植物（アケビ）



作業前



作業後



## 投棄物の回収清掃

以下の写真は全て、武蔵台小学校東側から緑地に入ってすぐの一带に投棄されたものです。  
この場所は投棄の量が多く、頻度も高いです。



ソテツ、アマドコロの葉  
ソテツはこの緑地では生育していません



陶器製の製品 5Lの袋 2袋分



培養土・素焼きの鉢・ゴールドクレストの枝と根株・計量スプーンが投棄されていました



一带に投棄されていた鉢など 土には幼虫や病気が含まれている可能性もあります



投棄された土に入っていた根から  
芽生えてしまったと思われる栽培種

\* 緑地への植物や土の持ち込みは、生態系のかく乱に繋がりますので、やめましょう。



## 市民協働 1

### 府中市環境調査員会議との協働 自然環境調査（植物班）

毎月1回開催される自然環境調査（植物班）に同行し、調査をしています。

調査日以外に見つけた生育場所・状況等については随時、情報提供をしています。

今月は文書で情報提供をしていたサイハイランの新たな生育場所を現地で確認しました。



シロヨメナ 綿毛のついた種子



調査風景 大量の落葉に埋もれている草も

### 武蔵台緑地保全ボランティアとの協働

緑地整備活動に同行し、手入れ内容や方法についての助言や植物生育状況などについて情報提供をしています。

今月はヤマユリエリアで、ササ類の刈り取りと、落ち葉かきを行いました。



作業前



作業後

ササ類や大量の落ち葉に埋もれていたシュンラン・ヤブラン・ジャノヒゲなどが、手入れによって見えるようになりました。

## 市民協働 2

### 東京農工大准教授による自然観察会に参加

武蔵台緑地の特徴と生育する植物の特徴について学ぶ現地観察会に参加しました。

講師：東京農工大学 植生管理学研究室 **吉川正人** 准教授

#### 要点

- ・ 武蔵台緑地はいわゆる「武蔵野の雑木林」。農用林のため、枝や落ち葉・ササ類は利用のために持ち出され、林床は貧しく草原のような環境であった。
- ・ 林床に葉が厚く堆積すると、草の細かな種子は芽生えることができない。
- ・ 発生材（有機物）を集積するならば、林外で行うこと。
- ・ かつては主要構成種の筆頭であったコナラやクヌギだが、ナラ枯れによって個体数が激減した。そのため、今ではケヤキの方が目立つ印象の林となった。
- ・ コナラの後継樹育成が必要。現在、実施している実生木の育成を継続するとよい。
- ・ 過去の調査で発見された植物、府中市では珍しい植物について。
- ・ 林縁は生物多様性においてとても重要なので、やぶにならないように。
- ・ ササ刈りは“やり過ぎ”を危惧していたが、よいさじ加減で進んでいる。
- ・ キンラン 武蔵台ではかなり減っていた。緑地の手入れがされるようになり、ここ10年くらいで増えてきた。
- ・ シュンラン 府中市内で一時期、絶滅したと言われていたが、また増えてきた。
- ・ ヤマユリ 最初は人の手によって持ち込まれたもの。自生ではない。



観察会の様子



## 植物相調査

こまめに調査をし、毎月 1 回の自然環境調査では確認していない時期や箇所の状況を記録しています。



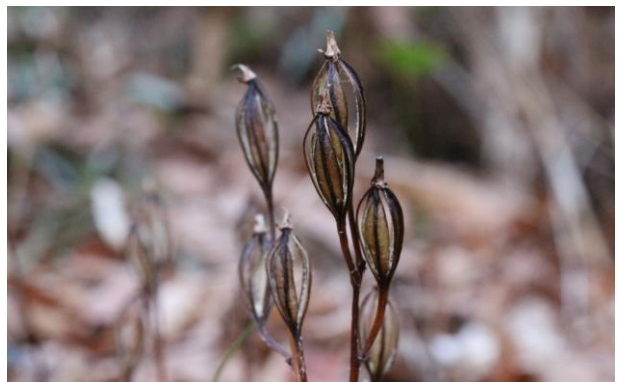
フデリンドウ 葉が出てきました



ユキワリイチゲ 開花 関東には自生しない



マヤランの生育地を新たに確認



マヤランの果実 裂けて開くことで  
内部の種子が散布されます。



コナラの芽生え 根は既に土中に伸びている



ムラサキケマン 冬葉  
緑地内でよく見かける植物です。  
春には別の新しい葉が開きます。



## 緑地内で見かけた動物



ムラサキシキブの実をついばむメジロ

メジロ スズメ目メジロ科

常緑広葉樹林に多く、  
ツバキなどの花の蜜も好みます。

武蔵台緑地では、大階段周辺で  
ツバキとムラサキシキブを行き来する  
姿をよくみかけます。



スズメバチ 巣

種名 不明

常緑樹の切株から多数伸びた萌芽枝の  
地面際に作られていた巣です。  
大きさはサッカーボール 大

もぬけの殻となっていました。

夏から秋にかけて、スズメバチが飛んでいる  
姿はよく見かけていましたが、巣を見つける  
ことはありませんでした。